



## 文学のふるさと その30 —熊本城—



# わたしの郷土

八代市立日奈久小学校六年

篠原 加代子



わたしの町は、南北に細長く広がった温泉町です。うしろは九州山地、前は八代海で、その向こうに、天草の島々が見えそのながめは、すばらしいものです。山に近く海にも近く、しんせんな物が食べられます。その上「湯の香」、「潮の香」につつまれた、こじんまりとした町です。

温泉で発展した町だけに、昔からの旅館街が、町の中心になっていますが最近では、いろいろな施設もふえ温泉センター、老人いこいの家なども出来てにぎわっています。

町の行事もいろいろとあり、せい大に行われます。温泉の祭り「うしの湯祭り」は、小さな子供たちがハッピをきて、おみこしをかついだり、しゃもじをたたいたり、いろいろな出し物が町を歩きます。夜には花火大会がありとてもきれいです。「七夕さん」、短いさきに、ちょうちんやねがいごとを書いた色紙をつけて、町をまわり海にながしにいきます。

## わたしの町、日奈久

す。「十五夜のつなひき」各町内で大きなつなを一つずつ作りハッピ姿で町を歩き湯泉センターの前でつな引きをします。そのほか「温泉神社の祭り」「とうろうながし」などいろいろとあります。

交通は、国鉄鹿児島本線日奈久駅があり、その前を国道三号線も通っています。駅には昔そのままの馬車がお客を待つという、豊かなところが残っています。日奈久の一日は駅前の朝市からはじまり、雨の日も、風の日も、寒い冬も、毎日あります。朝は早くからやさしい、魚、くだもの、その他いろいろな物がならびます。六時半が過ぎると、朝市があったのかと、思われるぐらいきれいな広場にかえります。こんな日奈久の町を私は、大好きです。もっともっと発展した日奈久にしていきたいと思っています。

海音寺潮五郎

## 武将列伝

石垣のゆるやかなすそ野をのぼりつめると頭上にくつがえって、見る人を威圧する男性的な「武者返し」は、熊本のシンボリック風物詩のひとつ。築城いらいすでに三百六十余年城は幾多の変遷を経て、権力の象徴から観光資源に変わった。

この熊本城の築城や治水などの土木工事で今なお県民に尊敬されている「清正公さん」こと「加藤清正」は、日本史に登場する多くの武将たちの一人として、海音寺のライフ・ワーク的著書ともいえる「武将列伝」に登場している。